

トクゾク

医療・医学情報の流れが大
きく変わろうとしている。印
刷された情報媒体から電子情
報への転換である。病原性大
腸菌「O(オー)157」に
よる食中毒の大流行はわが国
でも医学・医療情報の流通手
段としてインターネットがい
かに役に立つかを明快に実証
しつつある。

医師の5%が使用?

最新の医学知識に基づいて
最良の医療サービスを提供す
べき医師にとって、インタ
ーネットはもはや無視できな
い。医師の約5%がインタ
ーネットや電子メールを使用し
ていると推定されているが、
O157食中毒を契機にし
て、インターネットの普及に
拍車がかかることは間違いな
いだろう。

五月二十八日の岡山県久
町に端を発した食中毒の情報

0157で医療ネット普及加速

は、六月には岡山大学医学部
公衆衛生学教室によってイン
ターネットに掲載された。

七月十一日、堺市でO157
集団食中毒の発生に遭遇し
た大阪市立大学付属病院はO
157HUS(溶血性尿毒症
症候群)治療チームを編成、
十九日には治療などを速報
した。同チームは二十八日ま
で毎日、O157感染症の症
例や治療法などの情報を提供
した。

この情報サイトには八月
日まで二万回以上のアクセ
スがあり、質問や意見などの
電子メールが四百五十通以上
も寄せられた。

また、大阪大学医学部感
染症研究の中核施設である同
大学微生物病研究所がO157
のホームページを開設、付
属病院小児科は外来診療マニ
ュアルや二次感染予防法案を
開示した。

このほか名古屋大学小児
科、国立予防衛生研究所、横
浜市立大学、「Doctor
s Net」、堺市立病院
(情報サイトは学童集団下痢

診療法の浸透促す チェック機能課題

主なO157関連専門情報サイト一覧

大阪市立大学付属病院
<http://www.hosp.msic.med.osaka-u.ac.jp/o-157re.htm>
大阪大学医学部
<http://www.med.osaka-u.ac.jp/doc/o157/handai.html>
名古屋大学小児科
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp:8888/119/157.html>
岡山大学公衆衛生学教室
http://dph5.med.okayama-u.ac.jp/oku_home01.html
Doctor's Net
<http://www.nikkeibp.co.jp/NMAND/NHC/DOCTOR.html>
国立予防衛生研究所
<http://www.nih.go.jp/yoken/bac/O157.html>
厚生省
<http://www.mhw.go.jp/>
堺市学童集団下痢症対策本部
<http://www.globe.or.jp/sakai/o157main.html>

法、消毒法などの知識が一挙
に浸透したのだ。インターネ
ットにアクセスできない医師
もまだ多いため、各地の医師
会は情報サイトからタウンロ
ードした資料を医師会報など
に再掲載している。

もちろんインターネットに
も弱点がある。情報掲載を急
ぐあまり、誤植などのミスが
起こりやすいのだ。

実際、厚生省が八月二日の
午後十時に発表し、翌三日午
前中に掲載した「O157感
染症治療マニュアル」には誤
植が二カ所見つかっている。

一つは腹痛に対する痛み止
めの投与量の目安の単位が誤
り。もう一つは、避けたほう
が良い痛み止め薬の誤り
植だった。同省は単位の誤り
は五日までに訂正したものの
、七日の午前中まで薬剤名

の誤植は訂正されなかった。
インターネットの情報は、
インターネットの情報は、
いわば生放送だ。内容は刻々
と変化する。この特性を理解
しないと早とちりすることが
ある。

このため、科学的に精査さ
れていない情報も一人歩きす
る。O157の治療方針を巡
り、抗生物質の使用と重症患
者に対する血しょう交換療法
の適用に関しては、厚生省の
治療マニュアルが発表された
現在でも、必ずしも医師の意
見は一致していない。インタ
ーネットにも賛成派、反対派
の情報ながれ流されている。
こうした混乱の第一の理由
はO157の治療経験が少な
いことだ。しかし、簡単に情
報発信できるインターネット
の特性が混乱に拍車を掛けた
ことも事実だ。専門雑誌の論
文審査制度に代わる新しい情
報のフィルターを作ること
が、インターネットを我が国
の医学・医療情報の流通手段
として定着させるための急務と
なってきた。

情報発信で混乱も